

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区六本木 1-3-41
園名	ten kids アークヒルズ園

## 1 活動のテーマ

<テーマ>

表現～乳幼児期に必要な身体の育ち～

<テーマの設定理由>

先生の歌や音楽を聞くと体を揺らしたり手足を動かす姿があり子どもたちが思いっきり全身を使いながら脳と神経にアプローチした体操を作り子どもたちのしなやかな身体づくり、生きるために必要な筋肉を育て、「静」「動」を取り入れながら感情のコントロールのため本テーマを設定します。

## 2 活動スケジュール

◎期間：令和7年4月～令和8年3月<0-2歳児20名>

10月：2回、11月：2回 12月：2回 1月：2回 2月：2回 2月：2回

子どもたちがいろいろな音に触れる時間づくり、子どもたちの様々な動きの観察。職員と講師（外部委託）によるオリジナルの楽曲作成と子どもの発達に沿った体操づくりと子どもたちの健やかな育ちをサポート開始。楽曲作・体操の作成開始。

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・オリジナル体操制作、保育士への外部委託講師による指導の実施、オリジナル音源の作詞、作曲制作
- ・一人一人が自由に体を動かせるスペース
- ・音楽を流すスピーカー

## 4 探究活動の実践

### <活動の内容>

◎体操を通して自発的に体を動かし、昨日できなかった事が、今日できる様になったりと、体の動かし方を毎日の活動を通して探求していき、毎日の小さな習慣が子どもたちの未来につながっていく活動にしている。

◎ただの運動ではなく、5歳までに大きく育つ神経系の発達を促し、生きるために必要な筋肉を育て、「静」「動」を取り入れながら感情のコントロールができるようにする。

◎毎日の小さな習慣が子どもたちの未来につながっていくので、日々の保育の中で、子どもたちが自発的に取り組めるように、オリジナルの音楽を流し行っている

◎体操以外の時間でもポーズをとる子がいたため、朝の会や帰りの会などでオリジナル体操の音楽を流し体操をしている。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎初めての取り組みとなったが、とても興味をもって取り組む子ども、全く興味がない子と様々な姿があった。無理強いさせることなく、保育士が子どもと一緒に楽しく行う事で興味のある子が、保育士の真似をしながら一生懸命に体を動かして、「できた」「できない」と言いながらもやってみる姿があった。

◎体操がはじまるととても喜んで参加する様子がみられ、体操の音楽がかかると自然と体を動かしとても楽しそう。子どものできない動きには、保育士が声をかけたり、サポートしていく中で、子ども自身も自分の体の動きを探求しながら保育士の動きを見よう見まねで工夫をしてやってみる姿があり、できない動きができるようになってとても嬉しく自信になっているのが感じられる。

◎前回行ったことを覚えていて、興味のある子はさらに積極的に取り組む姿があり、難しい動きも、「できない、どうやるの?」とどうやったらできるか考え、探求しながら体を動かす姿があった。月齢によってはまだまだできない子もいるが、できる、できないに関わらず楽しく体を動かしていた。興味のない子も、好きな動きの時には体を動かしてやってみる姿があった。

◎音楽が流れると「やったー」といってとても積極的に体を動かす姿がみられる様になった。ほとんどの子が部分的ではあるが参加できる場面が多くなってきて、自分の好きな動きを理解して、その場面をとても楽しんでいる。保育士の傍で手を差し伸べて、手を繋いで一緒に楽しむ姿もある。興味のある子同士は、さらに顔を見合わせて楽しんだり、手を繋いでさらに盛り上がって参加している。体を動かす楽しさを味わっている。

◎集団での体操ができる様になってきて、みんなで手をつないで後ろに倒れたり、頭を足につけたりと、保育士の言葉にもしっかり耳を傾けながら取り組む姿がみられるようになった。個々ではなく、みんなで一緒に体を動かす楽しさを味わえている。みんなで顔を見合わせたり、「おきて」と友だちに声をかけあたりしながら楽しんでいた

◎両手を広げて、片足をあげるポーズをとると「かかしみたい〜!」と声に出して表現する。

◎「静」の時間では、目を閉じて、音楽を聴いていると「きもちいいね〜」「安心できるね〜」と言葉で表現する。



## 5 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

◎興味のある子、興味のない子と様々だったが、保育士が楽しく行う姿に少し興味を示す姿があった。興味がある子は、積極的に体を動かしてできない動きも何とかやってみようとする様子があったので、回数を重ねるごとに、自分でどう体を動かしたら良いのかを探求していく機会になれば良い。

◎興味のある子は、さらに楽しく積極的に体を動かす姿があった。また、興味がなかつた子も友だちの様子をチラチラ見ながら、好きな動きの場面には一緒にやってみる姿があったので、体を動かす楽しさを知って欲しい。また、ただ体を動かすだけでなく、どうやったらこの動きができるのかを探求できるように、探求する心が育つように促していきたい。

◎歌を口ずさみながら体を動かす姿が見られる様になった。楽しそうに取り組む子に影響されて、今まで興味を持たなかった子も、参加する時間が多くなってきている。体操の流れもつかんできて、「次はこれかな～」と楽しみにしながら行う姿があった。前回できなかった動きができる様になると「できた」と声を出して喜ぶ姿があった。

◎日々の生活の中では、どうしても子どもの動きが限られてしまう為、体操では、あえてこの年齢に必要な神経系の発達、筋肉の発達を促すための様々な動きを盛り込んでいるので、気が付くとできるようになっていく事で、子どもの運動機能の成長を著しく感じる。子ども自身もできない動きができる様になりたいと探求しながら取り組んでいる姿も見受けられ、運動面、精神面において、体操を通して成長している。